

## 第2回エコミュージアム研修会

日時／平成 17 年 1 月 17 日

場所／沢内村役場（現・西和賀町沢内支所）

### 演題：「伝統的文化は資産になりえるか」 講師：名久井 文明

日本の文化の基礎となる縄文文化との深いつながりを探ってきました。雑穀の栽培や作業用具、木の皮の文化（用具）、木の実の食材、伝統技術「ざる」や「かご」の自然の素材などを調べました。

各地の古老を訪ねて気づくのは、自然と上手につきあい、さまざまな努力や工夫を凝らしながらひたむきに生きてきた先人達の生活文化の知恵です。文化を伝えている人はただの年寄りではありません。私にはまさに「むかし技の匠」として人間国宝のように思えます。

しかしそんな折角の貴重な技術を受け継いできた人々も、現代社会ではその技を発揮する場がなくなってしまいました。新しいこと、早いこと、便利なこと、金になることを良しとする現代社会の中で、「伝統的文化」は急速に消滅しています。「むかし技の匠」が尊敬され、尊厳をもって技を伝授できるような、そんな社会であつたら素晴らしいと思うのです。さまざまな用具を作った伝統的な知識や技を見直すことは、経済効率優先のひずみに満ちた現代社会の中で、何かしらの示唆を与えるのではないかと思われてならないのです。

（以下に三つ提言します）

#### 1. 「むかし体験の家」をつくる

学校に通う児童や生徒たちを対象に茅葺きの伝統的な家屋で、昔の生活用具や農具をなるべく昔のままに配置して、見たり手で触れたりして感じ取ります。

#### 2. 「作り部」を育てる

成人を対象とするもので、「むかし技」をもっている古老が、昔の技術を受け継ぎたい若者に伝統的技術文化を教えて、次の世代に受け継ごうとするものです。



### 3. クラフト塾」をつくる

伝統的工芸技術を基礎として創作しながら、工芸作家から指導してもらい、腕を磨いて作品を作り、展示や販売もできます。



講演する名久井文明先生

#### ◆講師プロフィール 名久井文明◆

1942 年生まれ。岩手県立博物館(学芸員)在任中から、県内外各地で古老から伝統的文化について聞き取り、縄紋文化とのつながりを研究しています。

主な著作に『九十歳岩泉市太郎翁の技術』(一芦舎)『樹皮の文化史』(吉川弘文館)『山と生きる』(共著・一芦舎)があります。

物質文化研究所一芦舎代表、日本考古学協会会員、日本民具学会会員、岩手大学人文社会科学部非常勤講師です。